三番瀬でひろった二枚貝の種同定と、漂着までの考察

たかや

１．テーマを選(えら)んだ理由(りゆう)・目的(もくてき)

2021 年 11 月 11 日、三番瀬の浜辺を歩いていたら大量の貝が打ち上げられていました。私は､どうして貝がたくさん打ちあがっているのだろう､と思い､調べてみることにしました。

10 月の浜辺。マテガイは落ちていない。

11 月 11 日の浜辺。マテガイがたくさん落ちている。

２．調べた方法

打ちあがった貝を図鑑で調べてみたところ、三番瀬ではしばしばみられるマテガイであることがわかりました。
さらに貝がらをじっくり観察すると、生きているフジツボがついているものを見つけました。
マテガイは砂の中でくらすため、生きているうちにフジツボはつかないのではないか、と思いました。
そのため、このフジツボが大きくなるまでの時間を調べてみることで、いつごろフジツボがついたものかがわかり、その時点で貝が死んでいたことがわかると思いました。

フジツボがついていたマテガイの貝がら

３．使った道具など

図鑑
ルーペ

４．予想（よそう）

7 月から 8 月にかけて、青潮でたくさんのマテガイが死にました。11 月に打ちあがったものだけど、8 月に起きた青潮で死んだマテガイの貝がらなのではないか、と考えました。

2021 年 8 月 10 日の浜辺におちていたたくさんのマテガイ。前日にはもっとあった。

５．結果（けっか）

付着していたフジツボの一つを図鑑で調べたところ、和名をサンカクフジツボと言い、低潮線下、つまり潮が引いても水の中にあるようなところの、貝がらやブイなどに多くみられるそうです。

また、殻の幅が 1㎝ に満たないこのフジツボは、大きさから推定すると 6～7 月に生まれ、7～8 月にマテガイに付着したものだと考えられます（塚本（1990））。

サンカクフジツボ

６．考察（どうしてその結果になったのか、自分の 考 え）

2021 年の 7～8 月には青潮が頻繁に発生し、マテガイをはじめ、アカエイや他の魚がたくさん死着しました。
このマテガイは、おそらく 8 月 9 日に上陸した台風 10 号による風や高潮によって沖に運ばれ、どこかにひっかかっていたのでしょう。それが 11 月 9 日の豪雨や強風によって再び打ち寄せられたものだと考えられます。

8 月 9 日に上陸した台風 10 号による高波

７．展望（同じテーマでもっと研 究 したいこと）

マテガイはどこにひっかかっていたのか、沖にはまだマテガイがあるのではないか。
三番瀬にはどのくらいのマテガイが生息していて、青潮でどのくらい死んでしまったのか。

８．研究をしてみた感想（楽しかったこと、むずかしかったことなど）

11 月に再び流れ着いたマテガイはとてもきれいで、一見すると 4 か月近く経過しているとは思えません。貝がらのもつ耐久力には、まったく驚きです。

９．参考にした資料

日本付着生物学会（2017）新・付着生物研究法．恒星社厚生閣.
西村三郎（1995）原色検索日本海岸動物図鑑Ⅱ．保育社.
東京都内湾漁業環境整備協会（2016）新江戸前の貝図録．東京都内湾漁業環境整備協会.
塚本博一（1990）タテジマフジツボの飼育下における成長．付着生物研究 8.